

はじめに

- 1 大船渡東高校としてのインターンシップは、統合1年目の平成20年度からスタートした。食物文化科だけは前年、1年次で実施していたことから農芸科学科・機械科・電気電子科・情報処理科の4科が行った。ただ、新校舎ができる前だったことから萱中校舎（旧大船渡農高）と本校舎（旧大船渡工高）で従来の方法をそれぞれが踏襲して実施した。
翌21年度からは、完成した新校舎に全生徒が揃って集えることになったことから全学科が足並みを揃え、統一した内容で行うことになった。
- 2 計画・立案は教務課の主導で行われ、各学科はそれを受けインターンシップの受け入れ先を探したり、受け入れ事業先を訪問し、生徒の指導にあたっている。
現在の3年生は、統一した内容で行うようになった2年目にあたり昨年度（平成22年度）実施した。前年度（平成21年度）との変更点としては、事前打ち合わせに生徒が直接出向くことになった点がある。

1 平成22年度 研究発表「大船渡東高校のインターンシップ実施状況」

1 研究のねらい（インターンシップの目的）

産業現場における就業体験をとおして実地的な知識・技能に触れ、生徒に自己の職業適性を把握させるとともに、将来設計に向けた主体的な職業選択の能力や高い職業意識の育成を図る。また、仕事をとおして社会人としての心構えを理解させるとともに、異世代とのコミュニケーション能力も併せて育成する。

2 現3年生の1～2年次までのキャリア教育・進路指導について（主にLHR）

- (1) 1年次 (H21年度)
 - 5/8 Q-Uテスト（1回目）
 - 7/3 レディネステスト
 - 9/11 進路ガイダンス
 - 10/13 県立農業大学校見学研修（A科1年生のみ実施）
 - 10/23 Q-Uテスト（2回目）
 - 1/22 進路報告会
 - 1/29 進路アンケート
- (2) 2年次 (H22年度)
 - 4/23 進路希望調査
 - 5/21 Q-Uテスト、進路について考える
 - 7/2 職業について考える
 - 7/16 インターンシップ事前指導（概要説明）
 - 9/10 インターンシップ事前指導（自己紹介カード作成）
 - 9/17 インターンシップ事前指導（整容指導等）
 - 9/27～29 インターンシップ
 - 10/15 インターンシップ事後指導（感想文等）
 - 10/18 先進農家見学研修（A科2年生のみ実施） JAおおふなと花き団地、生産管理センター、先進農家
 - 10/22 Q-Uテスト
 - 1/21 進路報告会
 - 1/28 進路講演会（外部講師）
 - 2/4 進路希望調査
 - 2/25 進路ガイダンス（外部講師）

3 研究・指導の方法（インターンシップ実施内容）

- (1) 期間 ①平成22年9月27日(月)～29日(水)3日間 農芸科学科・情報処理科
②平成22年10月5日(火)～7日(木)3日間 機械科・電気電子科・食物文化科

(2) 対象	第2学年	農芸科学科	39名	
		機械科	34名	
		電気電子科	40名	
		情報処理科	39名	
		食物文化科	39名	
		合計	191名	※ 進学予定者も実施する。

(3) 体験場所についての方針

ア 気仙管内の事業所とし、自宅から無理なく通勤できる範囲とする。

イ 興味関心のない世界の体験も必要であろうということから、配属先は進路上の希望職種と一致させることを前提としない。

(4) 2年生（平成22年度）当初の進路希望

4月に行った進路希望調査の段階では、生徒達の自己理解度が進んでいる者からほとんど分析できていない者までまちまちであり、またはっきりとした将来像を描けずにいる者が多く、下表のような状況であった。

【 就 職 】 31名

職 種 群	管内	県内	県外	未定
①専門的・技術的・管理的		1		
②事務的	1			
③販売	1	2	1	
④サービス	2	1	3	
⑤金属材料・化学製品製造・窯業・土石製品製造				
⑥金属製品・機械製品製造				
⑦飲料・食品原料・食料品製造	2			
⑧紡糸・織布・同関連、衣類・繊維製品製造				
⑨その他の製品製造、その他の技能工・生産工程		1		
⑩定置機関・建設機械運転、電気作業				
⑪採掘・建設・労務				
⑫それ以外の職業	2	2	2	
⑬未定	1	2	2	5
合 計	9	9	8	5

【 進 学 】 6名

系 列	大学・短大	専門学校	職能開発	その他	未定
①自動車・航空		1			
②情報処理・コンピュータ					
③建設・土木					
④公務員ビジネス		1			
⑤医療・福祉					
⑥教育・保育		1			
⑦調理		2			
⑧理容・美容					
⑨デザイン、アート		1			
⑩農業、その他					
⑪未定					
合 計		6			

【 未 定 】 2名

(5) インターンシップの生徒配属から実施までの流れ

ア	実習先希望調査	6月18日（金）		生徒
イ	事業所・住所録確認	6月21日（月）	～6月25日（金）	教務課
ウ	事業所へ協力依頼文書発送	7月6日（火）		教務課
エ	事業所へ受け入れの確認	7月12日（月）	～8月6日（金）	学科
オ	各科との調整、配属検討、決定	8月18日（水）	～8月30日（月）	学科長・担任
カ	配属決定の連絡・打合せ日の確認	8月30日（月）	～9月2日（木）	学科
キ	自己紹介カード作成	8月30日（月）	～9月3日（金）	生徒
ク	事前打合せの生徒への指示	9月3日（金）	～9月6日（月）	事業所担当科
ケ	事前打合わせ期間	9月7日（火）	～9月14日（火）	生徒
コ	学年集会（LHR）	9月17日（金）		学年・生徒

4 指導展開（実践）

(1) 農芸科学科の生徒進路希望職種と配属先人数（農芸科学科2年 在籍39名）

	第1希望	第2希望	第3希望	配属先
高齢者施設	4	2	4	5
製造業（機械）	1	3		1
製造業（食品）	2	2	6	6
製造業（衣料）		2	3	
理美容	2		6	2
販売	1 2	8	5	1 5
電気工事業		1	2	
自動車整備	1	2	2	
調理	2		1	
事務職	2	1		
旅館ホテル	1	8	5	3
官公庁		1		
その他	1 1	5	3	7

- ・ 農芸科学科は、大船渡市16社、陸前高田市5社の、計21社で実施。
- ・ 農業関連望の生徒が2名いたが、受入れ先が見つけれず水産加工会社とした。
- ・ 前年度は、新型インフルエンザが流行したことから高齢者介護施設や保育園で敬遠されるケースがあった。当年度も流行次第という返答をした施設があった。

(2) 事業所からの意見・感想（農芸科学科が担当した事業所のうち12社からの回答）

ア この事業が生徒の進路意識の高揚に役立つと思いますか。

- ・ 役立つ 9
- ・ やや役立つ 2
- ・ あまり役に立たない 0
- ・ 役立たない 0
- ※ 本人次第 1（※事業所側が作った選択肢）

イ 実施しての効果の程はどう思いますか（複数回答可）

- ・ 企業や仕事の内容を理解してもらえた 9
- ・ 挨拶や言葉遣いなど基本的なことの大切さを理解してもらえた 8
- ・ 働くことの厳しさを理解してもらえた 7
- ・ 仕事の準備や段取りの大切さを理解してもらえた 2
- ・ 仕事は組織で協力して行われることの大切さを理解してもらえた 2
- ・ 企業と学校の相互理解が図られた 2
- ・ その他（3日間では何とも言えない） 2

ウ 日誌や生徒の自己評価について、お気づきの点がございましたらご記入下さい。

- ・ 仕事に対してやる気を持ってこられたので、指導もしやすかったと思います。
- ・ その日の目標を定めて取り組み、一日の反省を基に次の日の目標を定めて取り組むことができました。
- ・ 日に日に“働く”という事に対する意欲・意識が高まっている様子が伺え、どんな事を考えたり思ったりしながら仕事をしていたかがわかり大変良かった。
- ・ 地元就職の考え方に感心致しました。明るくはっきりとした返事をしていました。
- ・ 作業内容等を細かく記載し、しっかり振り返りが出来ているようです。
- ・ 基本的な挨拶に対しての苦手意識を少なくしてほしいです。
- ・ ムダ話もせず、極めて真面目に取り組んでいました。サービス業である事を意識しもう少し笑顔と挨拶が欲しかったように思います。

エ 実施時期や期間、受入人数、次年度の実施についてご意見や要望がありましたらお願いします（農芸科学科を受け入れた事業所分のみを抜粋）

- ・ 今後とも協力できればと思います。大変ありがとうございました。
- ・ 実施時期が他の中学校と重なって、指導が充分出来なかったのが当店の反省です。次回はこちらも余裕を持って取り組みたいと思います。
- ・ 期間・人数等が今回の様であれば受入可能です。但し、実習生と重なる場合は受入は変わることもありますので、その年々で調整してみたいと思います。
- ・ 一度のインターンシップ人数が少し多かったので、3人位の方が店としては指導することが出来ます。期間をずらすなどしてもいいと思います。
- ・ 時期や期間・人数、このままで良いと思います。人数はこれ以上多くなると通常の仕事に影響が出てくるものと思われます（昨年・今年度とも2名ずつでした）。
- ・ 時期・期間・人数ともに適正だったと思われます。

5 分析

(1) 事業所からのアンケートのまとめ

- ア 受け入れ人数は、多くの事業所が2～3名程度を適当としている。
- イ アンケート全体でみると、生徒の取り組みの姿勢を褒める内容が前年度よりも多かった。今後の受け入れについても積極的である。
- ウ 貴重な機会と捉え、限られた期間内にできるだけ多くの事を経験をさせようとする対応をいただいた。

6 反省点および課題

(1) 全体としての反省点・課題

- ア 5学科の日程を2学科と3学科の分割で実施する方法は、受け入れ事業所のキャパシティ（事業所数・職種数）を考え、今後も継続したほうがよい。
- イ 月末の実施では対応が難しいとする事業所があり、実施時期の調整が必要である。
- ウ 事業所の受け入れ確認から御礼まで、各学科・学年で分担しスムーズに進められた
- エ 過去には、実施を決定した事業所から「休業日や繁忙期なので対応できない」と、寸前になって知らされるケースがあり、今後も事前確認を綿密にする必要がある。
- オ 公欠や事業所の休業日による生徒については、用務員さんと農場で対応した。

(2) 農芸科学科としての反省点・課題

- ア 生徒の進路希望（特に専門）に関係する事業所を新規に開拓する必要がある。

2 平成23年度 研究発表「2年次に実施したインターンシップが生徒達の進路や考えにどのように影響を与えたか」

1 東日本大震災の影響

卒業生の進路は「就職：進学 = 65：35」であり、就職希望者は120名近い。従来から就職先の7割は地元企業であったが景気が上向き気配が全くない中、3月に東日本大震災が発生し、卒業生の進路先が流亡して内定が取消となった事態も生じた。

2 3年次の進路指導・キャリア教育について（主にLHR）

- 5/13 進路指導課長講話・進路希望調査
- 5/20 各種進路模擬試験①
- 5/27 進路ガイダンス（外部講師）
- 7/ 1 各種進路模擬試験②
- 7/15 会社見学、オープンキャンパス参加について
- 7/29 面接試験について
- 9/16 担任ガイダンス（進路について）

3 インターンシップと進路選択の実際（農芸科学科の場合）

インターンシップを実施してから10ヵ月が経過し、実際に進路活動が始まった。7月に実施した3者面談時の進路選定状況は、下表のとおりであった。

【 就 職 】 31名 → 28名

職 種 群	管内		県内		県外		未定	
	2年	3年	2年	3年	2年	3年	2年	3年
①専門的・技術的・管理的		2	1			1		1
②事務的	1							
③販売	1	2	2	2	1	3		1
④サービス	2	3	1	3	3	1		
⑤金属材料・化学製品製造・窯業・土石製品製造								
⑥金属製品・機械製品製造								
⑦飲料・食品原料・食料品製造	2	1		2		1		
⑧紡糸・織布・同関連、衣類・繊維製品製造								
⑨その他の製品製造、その他の技能工・生産工程			1			1		
⑩定置機関・建設機械運転、電気作業		1						
⑪採掘・建設・労務								
⑫それ以外の職業	2	1	2		2	1		
⑬未定	1		2	1	2		5	
合 計	9	10	9	8	8	8	5	2

【進学】 6名 → 8名	大学・短大		専門学校		職能開発		その他		未定	
	2年	3年	2年	3年	2年	3年	2年	3年	2年	3年
①自動車、航空			1							
②情報処理・コンピュータ										
③建築・土木										
④公務員、ビジネス			1	1						
⑤医療・福祉			1	1						
⑥教育・保育				1						
⑦調理			2	1						
⑧理容・美容				1						
⑨デザイン・アート			1	1				1		
⑩農業、その他				1						
⑪未定										
合計			6	7			0	1		

【公務員】 0名 → 1名

【未定】 2名 → 2名

就職希望者は、求人票がどの地域からどの程度来るのか全く予想が付かないことから暫定で考える家庭が多く、確定できない者も生じた。また、県外就職については全ての家庭で自宅のある所を希望した。一方、管内希望者が微増し、管内に固執する家庭も数件あった。

進学希望者では、学費と生活費についての不安が多く、各種奨学金の案内を随時行った。

4 アンケートの実施（11月実施）

採用の是非、受験の可否結果が出始めた。担任として、2年生の時にインターンシップを行った現農芸科学科3年生39名が当時を振り返り、今だどのような感想をもっているのかアンケート調査を行った。質問事項は5点である。

① 昨年のインターンシップは、現在の進路選定にどの程度役立ったでしょうか

- A：大いに役立った 10
- B：役だった 18
- C：あまり役立たなかった 8
- D：全く役立たなかった 2

② A～Dを選んだ理由を書いて下さい

- A：仕事の大変さなど様々なことがわかったから（4）
進路選定（この職業へ就職したいと思う）のきっかけになったから（2）
インターンシップで学んだことを、進路選定に活かした
自分になりたいと思っていた仕事を体験する事ができ、大いに役立った
子ども達と触れ合えた事、園の先生の手伝いをした事、全てが進路選択に役立った
接客業の大切さ、行動力の重要さがわかってためになった
- B：自分の知らない事をたくさん学べたから（5）…お客様への対応他
色々な体験が出来て、進路を選ぶのに役立ったと思う（3）
人と接することの大切さや、見えない部分での心遣いなど（3）
この職種が向いている（向いていない）とわかったから（2）
選択した職種は違うが、製造・生産についてよく考えることができた
自分の長所と短所を教えてもらった
声の出し方、どうすれば明るく気持ち良い挨拶ができるのか等を学ぶことができた
（日頃の）勉強をもっとするべきだとわかったし、仕事を少しでも学べて良かった
希望していた職種だったため、より勉強になった
- C：選択した自分の進路とは違うから（5）
思っていたことと全く同じで、何ともいえなかった
入りたい専門学校があったから
- D：選択した進路とは全く関係なかったから（2）

③ インターンシップを行って、自己理解出来たことは何でしょうか

◆向いていると思った

- ・ (この業種・職種が) 自分に向いていることがわかった (3)
- ・ 福祉関係の仕事で、遣り甲斐のある仕事だと感じ、自分に向いている気がした (2)
- ・ 主に配達業だったが、自分は力仕事合っていることがわかった
- ・ 製造業だった。モノ作りが好きなので、この職種が自分に向いていることがわかった
- ・ 子ども達との接し方を褒められ、向いているんじゃないかという自信につながった
- ・ 加工業だったが、自ら仕事を探すことがやはり大切だと思った。自分は同じ仕事を長くできると思うので、この仕事は向いているのではと思った
- ・ 接客はものすごく楽しくやりがいがあった
- ・ インターンシップと選択した進路とは職種が違ったが、人を支えたりお世話をするところは共通していて、人と関わる仕事は向いているのかな?と思った
- ・ 人と接しながら、見えない部分での作業をする仕事が向いていると思った
- ・ ご利用者の方とふれ合え、持ち前の明るさと積極性が向いている気がした (介護系)
- ・ 商品のある場所をすぐに覚える事ができ、接客も上手くできたので向いていると思った

◆向いていないと思った

- ・ お客様への対応が上手くできなかったと思うので、販売には向いていないと思った
- ・ 保育の仕事をしたが、子供は好きだけれどこの仕事には向いてはいないことがわかった
- ・ 接客よりも、淡々と黙々と作業する方が向いていると思った
- ・ 製造業で黙々と何かを作るより、お客様と会話ができる仕事の方が向いていると思った
- ・ 販売業を行ったが、製造業の方が向いていると思った
- ・ デイサービスを希望したが、人と話すよりも黙々と何かをする方が向いている
- ・ 高齢者と接するのは苦手なことが分かった。自分は介護職は避けた方がいいと思った
- ・ インターンシップではずっと店の中にいたけれど、自分は外に出て働く方が向いていた
- ・ 声を出す仕事は合わないと思った
- ・ 製造業に行ったが、自分は人と接していた方が明るく元気でいられる気がした
- ・ 販売業を行ってみたが、人見知りすることから製造業の方がいいと思った

◆知らなかったことがわかった

- ・ 人との接し方や対応の仕方など (3)
- ・ 先輩達にわからない事ややるべき事をしっかり聞いて、理解した上で仕事をする
- ・ 保育園では、児童と向き合う仕事なので子ども達に合わせて話すことが大変に思えた
- ・ 美容師は見えない努力が必要。技術のあるなしの差が激しい!
- ・ あいさつの大切さなどがわかった
- ・ 人見知りだと大変

◆その他

- ・ 人と会話できる仕事がしたいと思った
- ・ 助手として仕事ができ、物を運んだりして、喜びや愉しみを感じた
- ・ 販売職を体験し、お客様にあいさつや明るい笑顔で接することが楽しいことと感じた
- ・ 一つ一つ作ることの大変さとやり甲斐を感じた

④ インターンシップについて、今振り替えると、どういう感想・要望がありますか

◆感想

- ・ 本当に良い体験だったので、行けて良かったと思っている (4)
- ・ 大変だった事と、充実感 (4)
- ・ とても疲れたがとても有意義に取り組む事ができた。少しでも多くの体験をした方が、後々役に立つと思う (3)
- ・ 目上の人やお客様と接することで、新しい自分が見えてきた (2)
- ・ “働く”という大切さを学んだ
- ・ 自分のしてみたい仕事をし、向いているかどうか分かったし、外からは見えない仕事内容も分かったなので、いい体験をした
- ・ ネットや本・テレビで知るよりも、実際に行き体験しないとわからない事がたくさんあるから良かった
- ・ とても役に立てたし、試験時は面接で良い印象を与えられた気がする
- ・ 社員の方と同じ作業を一日やったが、思ったよりも一日中仕事をするのはとても大変なことだとわかった
- ・ 職場にとけ込めて、職場の人達と仲良くできた
- ・ 仕事をしている人の話を直接たくさん聞いたので良かった

◆要望

- ・ 3日間はすぐに終わってしまったので、もう少し期間が長ければ良かった (5)
- ・ 場所を自分で決められた (3)
- ・ 事業所の選択肢をもっと増やして欲しい
- ・ 先生が決めたり、動いたりすることが多かったので、残念だった
- ・ 管外でも体験したかった

- ⑤ 震災によって進路を変えざるを得なかった場合、何が変わったか書いて下さい。
- ・ 県外を考えていたが、被災した地元も役に立てばと思うようになり管内を希望した(3)
 - ・ トラック運転手になろうと思っていたが、町の復興のために土木業にした
 - ・ 希望したかった企業が津波で流失したため、他社に切り替えた
 - ・ 希望する職種の求人がなかったため、県外に切り替えた(2)
 - ・ 管内就職を希望していたが、進学にした
 - ・ 美容師の専門学校を考えていたが、将来を考え、短大への進学へと切り替えた

5 進路結果(12月12日現在)

【就職】	職 種 群				
	管内	県内	県外	未決定	
26名希望	①専門的・技術的・管理的	2		1	1
	②事務的			2	
	③販売	1		3	2
	④サービス				
	⑤金属材料・化学製品製造・窯業・土石製品製造				
	⑥金属製品・機械製品製造	1			
	⑦飲料・食品原料・食料品製造	3		3	1
	⑧紡糸・織布・同関連、衣類・繊維製品製造	2			
	⑨その他の製品製造、その他の技能工・生産工程				
	⑩定置機関・建設機械運転、電気作業				
	⑪採掘・建設・労務	1			
	⑫それ以外の職業				
	⑬未定				3
合 計	10		9	7	

【進学】	職 種 群				
	大学・短大	専門学校	職能開発	その他	未決定
13名希望	①自動車・航空				
	②建設・土木		1		1
	③情報・コンピュータ				
	④理容・美容				
	⑤医療・福祉		2		
	⑥調理		1		
	⑦公務員養成・会計・実務		1		
	⑧服飾・デザイン				1
	⑨文化・音楽		1		
	⑩農業、その他	1	2		2
	⑪未定				
合 計	1	7	1	2	2

6 分 析

(1) インターンシップについて

インターンシップという体験的な学習活動に対する取り組みや態度について、生徒達の関心には総じて高いものがある。地域社会との連携した活動に関しても気仙地域の企業は総じて体験的な学習活動に協力的であり、生徒達にとって良い影響を与えていただいていると感じている。

(2) その他のキャリア教育・職業教育について

今回はインターンシップを通じた内容に絞ったが、各学科単位の取り組みも有機的に機能しているように感じている。

ア 農芸科学科の取り組み

- (ア) 先進農家見学研修(1年生)
- (イ) 県立農業大学校見学研修(2年生)
- (ウ) スプリングフェスタ(2・3年生)
- (エ) 気仙光陵支援校とのツバキ交流(造園専門分会)
- (オ) 猪川保育園との草花交流(草花専門分会)
- (カ) 立根保育園とのサツマイモ交流(1年生)

イ 学校としての取り組み

(ア) 課題研究発表会 (毎年12月実施)

ウ 教科としての取り組み

(ア) 他学科の科目を年間2単位履修できる「横断的な学習」(2・3年生)

エ 教職員側の取り組み

キャリア教育は、教科・科目等の教育活動全体を通じて取り組むものとされている。そこで生徒達の基礎的・基本的な知識・技能の向上に向け、教職員の資質向上をめざし研究授業を年5回実施して教育力のスキルアップを図ってきている。

また、外部から講師を招聘し、適宜学習会を行っている。特に今年度は震災に関するメンタルケアについて実施した。

(3) 本校の離職率について (%)

	H20	H21	H22
農芸科学	45.0	28.6	15.8
機械	10.7	13.6	9.1
電気電子	20.7	24.1	6.3
食物文化	66.7	40.6	16.7

大船渡東高校となって今年度で4年目になり、学校運営計画に基づいた学校づくりを推進してきた。

進路指導課が行った調査によると離職率は年々大幅に減少しており、キャリア教育・職業教育に対する本校の取り組みには成果が表れてきていると思われる。

(4) その他

ア インターンシップの場所は、生徒自身で探させた方がより意欲的になると思われる。

イ 1年次に行った県立農業大学校の見学をきっかけとして、進学先として選んだ生徒がいたことから、実施した効果があった。

7 今年度の課題とまとめ

(1) キャリア教育で育成する主要能力に自己理解があり、自己の個性についての把握が重要なのだが、担任裁量のLHRの時間が2・3年生になるほど少なくなり時間の確保が難しかった。1年次でも、自己理解・他者理解についてのエンカウンターを3回行えただけである。後は、2者面談でカバーしていくことになった。

(2) 各家庭の進路への意識の差は多様である。兄弟姉妹の何番目かということで進路選択は変わり、また若いうちに県外へ行かせたいという考えとずっと家に居させたいという考えもある。女子に高学歴は必要なしと考える家族もあり、奨学金を借りてまで進学させようとは思わない家庭が少なくなかった。

(3) 現在の2年生について

東日本大震災によって多くの地元企業が地震・津波による大打撃を受けたことから、今年度はインターンシップの実施を見合わせざるを得なかった。今後の実施も予定していない。

(4) 現在の1年生以降について

来年度は、気仙地域の外(沿線沿い等)でのインターンシップが実施可能かどうか現在検討を図っている段階であり、従前の形態で実施できるようになるまでには、まだ多くの年月が費やされることは確実である。